

令和6年度「学校評価」について

今年度の長岡中学校学校経営方針の「重点目標」である4項目にもとづいて取り組んだ内容について、教職員による自己評価を行いました。要約したものが下のとおりです。

学校経営の重点

- | | |
|--|-----|
| I 「確かな学力（基礎・基本の定着、思考力・表現力・判断力等、学習意欲）」を育てる。 | 2.4 |
| II 豊かな人間性と社会性を育てる。 | 2.6 |
| III 基本的生活習慣の確立と健康の管理・増進と体力の向上 | 2.3 |
| IV 保護者・地域から信頼を得る学校づくり | 2.6 |

(※4:十分達成できている 3:ほぼ達成できている 2:達成できているとはいえない 1:ほとんど達成できていない の4段階で自己評価)

I 「確かな学力（基礎・基本の定着、思考力・表現力・判断力等、学習意欲）」を育てる。

- ・他の学校や小学校の授業を参観して研究することはできたが、研究発表がなかったため校内研究授業ができなかった。今後その機会をつくっていききたい。
- ・ICTを活用して視覚的にも理解しやすい授業を心がけた。また、レポート課題の作成や生徒の意見交流にもICTを活用することができた。
- ・進路学習や職場体験などを通して生徒は自らの生き方について考えようとしていた。外部人材や卒業生の講話が有効であったが、2日間の体験期間では十分な職業観を得ることが難しいと感じる。
- ・図書委員が主催した「本の福袋」の取組は生徒が本に触れる良い機会になった。
- ・補充を通じて「わかる」という内容を増やせるよう努めた。学校の補充が有効であるという保護者の意見を聞いた。

II 豊かな人間性と社会性を育てる。

- ・生徒指導部会や教育相談部会の実施を通して生徒の情報を全体共有できた。
- ・「心の健康アプリ」を十分に運用することができなかった。
- ・行事等を通して、リーダー育成等ができたが、生徒集団の活動を円滑に進める方策について不十分。
- ・いじめアンケートや教育相談を中心に、学校全体として生徒の実態把握に努められた。
- ・ICTを活用した見やすい視覚教材の作成や授業開始時のねらいと授業の流れの提示等、インクルーシブ教育システムの構築を視野に入れた実践を進めることができた。
- ・人権学習の公開により保護者や地域に本校の人権教育の指針を示すことができた。また、学年によっては年間を通して系統立てて人権教育を計画・実施することができた。
- ・人権教育における教職員の指導力向上については個人差がある。また、教員によってはその言動等に人権意識の低さを感じることもある。
- ・通常級の中にいる特別な支援を必要とする生徒への配慮が不十分であった。

III 基本的生活習慣の確立と健康の管理・増進と体力の向上を図る。

- ・心の健康について、終礼などの時間を活用して様々な課題提起をし、考えるきっかけを作ることができた。
- ・保健だよりで多くの情報が発信されている。たよりをもっと活用した指導ができればよいと思う。
- ・薬物や性的マイノリティーについての学びを進めることができた。
- ・部活動では、生徒の主体性を重視した部活動運営を進める部が多く見られた。
- ・部活動の地域移行を想定した時、転部する生徒や休みがちな生徒が多い部活動がどのように運営できるのか、保護者との関係性をどう保つのか等の課題が多く見えてくる。

IV 保護者・地域から信頼を得る学校づくりを進める。

- ・諸事情により清掃活動や花植え活動ができなくなり、それに代わる地域連携の在り方を考える必要がある。
- ・学校だよりや多くの教員が発行する通信等を通じて、家庭及び保護者に向けて学校からの情報を適宜発信することができた。
- ・通信や配付物が届きにくい家庭がある。スクリレと併用しても十分情報を伝えることができない。スクリレの有効な活用を研鑽する必要がある。
- ・地域や保護者からの意見や要望に対し、学校体制で迅速に対応できた。
- ・PTAへの理解が希薄化し、保護者への協力が得にくくなってきている昨今、学校の諸活動への協力をどこまで仰げるのか、PTA活動に学校がどこまで協力できるのか、どこかできちんと考えて整理していく必要がある。

